

令和7年度第1回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和7年8月22日（金） 午後2時から午後3時40分まで

II 場 所

徳島県庁10階 特別大会議室

III 出席者

【委 員】20名中15名出席

吉岡会長、三浦副会長、相原委員、岩野委員、
岡田委員、岡部委員（リモート）、表原委員、武知委員、
土岡委員、鶴委員（リモート）、二宮委員、松浦委員（リモート）、
柳澤委員、山田委員

【事務局】観光スポーツ文化部副部長、スポーツ振興課長、
スポーツ振興課交流拡大室長ほか

IV 内 容

開会

観光スポーツ文化部副部長あいさつ

会長選任

会長に吉岡委員を選任（副会長は三浦委員継続）

議事及び意見交換

- （1）令和7年度スポーツ関連施策の状況について
- （2）徳島県スポーツ推進計画の進捗状況について
- （3）その他

閉会

《配付資料》

- | | |
|-------------------------------|-----|
| ○ 令和7年度スポーツ関連施策について | 資料1 |
| ○ 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について | 資料2 |
| ○ ワールドマスターズゲームズ2027関西準備状況について | 資料3 |

【 会長 】

では議事に移りたいと思います。資料をご覧になりながらよろしくお願いいたします。まず議事 1、令和 7 年度スポーツ関連施策の状況につきまして。それから議事 2、徳島県スポーツ推進計画の進捗状況につきまして、それぞれ事務局より説明をよろしくお願いいたします。

【 事務局 】

資料 1，2 に基づき説明

【 会長 】

ただいま事務局より説明をいただきましたことにつきまして、ご質問ご意見をお受けしたいと思います。各委員の皆様方のご専門、それぞれのお立場でいろいろなご意見等いただきたいと思いますので、ぜひ積極的なご発言をお願いしたいと思います。

【 委員 】

そもそもこの事業計画の立て付けなんですけど、KPI よりおそらく実績が超えている項目がいくつかあったかと思うんですが、その伸びた数字に対して KPI の数値を変えるとか、そういう立て付けにはなってない計画なんじゃないでしょうか。確認だけです。

【 事務局 】

事務局よりお答えいたします。今時点につきまして、伸びているところもございますが、今のところは見直しをせずそのまま今進めていこうと考えております。ただご指摘につきましては改めて検討はさせていただこうと思います。

【 委員 】

(1-③全国高校総体もしくは同規模大会での入賞数について) 入賞数が増えていると思うんですけど、何故増えたかの要因というか、分析とかってされてますか。

【 スポーツ振興課長 】

最近で入賞数が増えている部分で言いますと、陸上競技なんかが比較的入賞数が多いかと思います。まず理由なんですけれども指導者が一貫してですね、例えば小・中・高と同じ目線で目標を一つにおいて、どのカテゴリーでも同じような指導をしていただけというのがあるのかなと考えております。

【 委員 】

2 点ほどお願いします。今のとちょっと関連するかもしれませんが、国民スポーツ大会で今後も順位目標というのを立てて、それを目指していくという姿勢に変わりはないんでしょうかということと、あともう一点、運動部活動地域移行推進、何か具体的に今進んでいることがあれば教えていただけますか。

【 スポーツ振興課長 】

まず国スポの方からお答えさせていただきますと、今国スポ自体が見直されている最中でありまして、積極的に順位を上げようというよりは入賞数の方で活躍できる子を育てていきたいと考えております。部活動の地域移行につきましては教育委員会の方でお願いいたしますでしょうか。

【 体育健康安全課班長 】

運動部活動の地域移行につきましては、令和 5 年度から今年度までの 3 年間をスポーツ庁の方針に則りまして、部活動地域移行の推進期間というふうに位置づけております。そして昨年度は 4 つの市、今年度は 6 つの市町におきまして、国の実証事業を行い、部活動の休日の地域移行につきまして、成果や課題の検証を行っております。

また中学生の選択肢の広がりという意味で地域クラブは着実に数を増やしております。令和 5 年度より中学校の総合体育大会にはこの中学校以外の地域クラブの参加が認められたということもありまして、地域クラブの参加数としまして令和 5 年度は 9 団体、6 年度が 26 団体そして今年度 7 年度は 39 団体と着実に地域クラブの数が増えているということが示されております。

今年度、県教育委員会といたしましては昨年度末 3 月に「ブカツ・サポート・コンソーシアム」という共同体と連携協定を締結いたしました。これは県内の各自治体の部活動地域移行の取組に、民間の力をサポートとして活用することを可能とする協定でございます。現在、県及び県内の自治体よりこのコンソーシアムに相談がかけられており、相談内容に応じたサポートを受けております。またスポーツ庁の有識者会議が 5 月に最終取りまとめという提言を出しております。これによって令和 8 年度以降の部活動の地域展開と呼ぶようになるんですが、部活動の地域展開のガイドラインというものがまた示されることと思いますので、県といたしましてはこの国の方針に則って県内自治体の部活動の地域展開の推進を支援してまいりたいと考えております。以上です。

【 会長 】

国スポに向けての考え方、それから部活動の地域移行、地域展開の現状についての説明がございました。

【 委員 】

2 点ほど質問であつたり確認でお願いいたします。

まず 1 点目で基本目標 1-⑤のセカンドキャリアのセミナーの実施を毎年されているところで素晴らしい取り組みだなと思います。ただ委員の皆様でパラアスリート、パラリンピアンの方、オリンピックの方いる前で恐縮なんですけれども、私もプロサーファーとして活動してきて今まさにセカンドキャリアを歩んでいるような状況で、やはりその必要性っていうのは子どもたちであつたり今スポーツに打ち込んでる人たち、選手の皆さまにとってすごく重要なところだと思います。なので今回 1 回開催していただいてここでアンケートなど何かしらの効果測定をされているのか、

そういったところの分析っていうのが後で出るのかっていうところをお聞きしたいっていうのと、やはり再々申し上げますが非常に重要なところなので、単発ではなく、ある一定の年次的な目標が絶対にこれに関しては必要になってくると思いますので、そういった計画が皆さまの中で存在するのかっていうのもお聞かせいただければと思います。

2 点目に関しましては基本目標 3-②ですね、障がいがある人とない人とが共に参加できるスポーツ大会の開催をしていただいております、こちらに関しても非常に有意義な取り組みだと思っております。私自身もパラサーフィンという障がいがあるサーファーの方々の大会というのを開催させていただいたり協力させていただいたりする経験もありまして、やはりこの 3-②では障がいの有無関係なくさまざまな方が集ってスポーツを楽しまれるという場所だと思うんですけども、やはり障がいの有無に関わらず全ての人が気軽に参加できるということがこの点においては非常に重要だと思います。もちろんその前の 3-①のノーマピックススポーツ大会も非常に重要な大会の位置づけだと思うんですけども、やはり障がいの有無関係なく横並びで大会と一緒に開催するなどして、より横の連携であったり一緒に開催するのが当たり前の徳島というような方向づけも全国に対してまた世界に対してパラスポーツの発展であったり障がいの有無関係なく自己実現を子どもたちが目指せたりというところで、徳島県が子どもたちであったりスポーツ愛好者の方に対してできるところの一つなのかなと思うので、そういった大会開催のたてつけといいますか、工夫というところも一つの提案といいますか、いろいろ課題はあると思うんですけども提言として提出をさせていただきます。質問は1点目のみになります。お願いします。

【 会長 】

ありがとうございました。それでは1点目の質問セカンドキャリアセミナーについての分析であったり、今後の計画についてどのようなことを考えているのかということよろしいですか。

【 スポーツ振興課長 】

セカンドキャリアセミナーにつきましては、昨年度お招きした柔道女子金メダリスト松本さんは、今現在セカンドキャリアとしてアイスクリームの会社を経営されておられます。いろいろ経緯もお話いただいた上で、参加者の方にもアンケートを実施いたしましてそれを取りまとめております。特にスポーツ選手に限って募集をかけておらず、一般の方とかも当然多分聞きに来られていたと思いますのでその回答結果が直接スポーツ選手のセカンドキャリアに繋がるものだけにはならなかったんですけども、中高生の方とか柔道やられている方にとっても非常に参考になったのかなと考えております。以上です。

【 会長 】

ありがとうございます。2 点目の障がいのある人とない人のスポーツ大会の工夫の点につきましては、提言ということでよろしいですか。

【 委員 】

そうですね。提言として提出をさせていただければと思います。

【 スポーツ振興課長 】

それにつきましても、おっしゃっていただいたような内容で、例えば（障がいのある人となない人で）同じ競技をできるような環境を整えていければなど、またご協力いただけるかなと思いますので、よろしくお願いします。

【 会長 】

他にご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

先ほども申し上げたんですけど、せっかくそれぞれのご専門それからそれぞれのご立場のある委員の方々集まっておりますので、できましたらそれぞれ一言二言ずつぐらいは言葉をいただけたらと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。オンラインで参加されている委員の方々でご質問ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

【 委員 】

よろしくお願いします。私も総合型地域スポーツクラブ海陽愛あいクラブというNPO クラブをクラブマネジャーとして勤務しているのと、あと実際に介護予防や高齢者指導もやらせていただいているのですが、特に最近では総合型クラブだけではなく地域の社協さんであるとか保健師さんであるとか、いろんな自治体の方と協力しながら高齢者の介護予防事業に取り組んでいるということを見せていただいている、すごく重いのがやっぱりこちらの目標3に書いてます単体ではなかなか厳しいところとかがあるので、やはりそういった自治体の協力で他の団体との連携というのがすごく大事なと思うのが痛感していますので、そういったところとも密に連携を取りながら、いろんな運動で介護予防なんかも進めていけたらなというのが最近思うところがあります。意見になりますけれども以上です。

【 会長 】

総合型地域スポーツクラブ等で高齢者、もしくは、介護等の中で、自治体とか、他の団体との協力っていうのが、今まで以上に必要になってくるのではないかと。

【 委員 】

そうですね。総合型と社協の職員の方と実際に町の職員である保健師さんですね、そういった方と自分たちの会員の方とか地域の社協の方だったら高齢の方とか情報共有をしながら、こういう地域にはこういう私たちが入って行って百歳体操を進めるのが必要だなとか、そういったことも少しずつ連携しながら会を設けながらやっていくというのを取り組んでますので、そういうのを実際やってみて、すごく単体だけじゃなくていろんなところとの情報共有というのが、いかに地域のこれから今後とても大

切な、自分たちがやっててすごく感じる事なので一応、情報共有としてお話しさせていただきました。

【 会長 】

ありがとうございました。委員からは、町のほうでの他団体それから自治体への情報共有とか連携の大切さ、それを実際に今実施しているとの報告ということでいただきました。

【 委員 】

よろしくお願いいたします。先ほど話題に出ていたのですが資料 2-⑤、⑥あたりのセカンドキャリアセミナーとか講演会が行われていて私も一部受講させていただき、すごく有意義な時間だったと感じているのですが、参加するにあたってたまたま県のスポーツ関連のサイトなど巡回を 1、2 ヶ月に 1 回ぐらい巡回してるんですけども、そこでこの講演会が開催されるっていうことを知って初めて申し込みをしたんですが、こういう誰でもが参加できるようなイベントとかが集約されているようなページってどこにあるんでしょうか。どこかありましたら教えていただきたいです。

【 スポーツ振興課長 】

スポーツに特化したものがちょっと今は多分ないと思いますが、県の開催するイベントは県のホームページで多分イベントのページがあるので、そこで見られるようになると思います。またスポーツに特化はしていないんですけど、当然我々も県のホームページの方に新着情報として上げていきますので、イベントがある場合はトップページの方に出てくるという形になっておりますが、スポーツに関するものがあってもいいのかなと思いますので、今後また検討させていただきたいと思います。以上です。

【 委員 】

ありがとうございます。こちらから情報を取りに行かなくても何か自然と流れてきて目につくようなシステムがあったらすごく役に立つかなと思いました。あともう一つよろしいでしょうか。話は全然変わるんですけども、私は去年初級パラスポーツ指導員の資格を取らせていただいて、この半年ぐらいで先ほど資料にもありましたノーマピックの大会とか障がい者のスポーツ大会の県予選のサポートなどをさせていただいたんですけども、なかなかそちらと一緒に初級パラスポーツ指導員の資格の講義を受けた方とはお会いすることがなくて、講義を受けて資格を取られた方でどれくらいの方が活動されているのかなというのをちょっと聞いてみたいなと思いました。

【 委員 】

失礼いたします、パラスポーツ協会です。毎年「公認初級パラスポーツ指導員養成講習会」に受講者は 30 名近くおります。先ほど委員がおっしゃったように、昨年度受講していただいて 7 年度に活躍をしていただいています。講習会終了後活動してい

ただけるように、案内はしています。参加いただくのは、土曜・日曜・平日とそれぞれあるんですが、私どもパラスポーツ協会といたしましては前年度に修了した方は翌年度の事業に、できるだけ参加してくださいと、活動の場の提供をしております。また、講習会受講者の方々を含め、「パラスポーツ人材バンク」に、100名程度の登録いただいております。またイベント以外にも施設の出張スポーツ教室等にご参加はいただいているというのが現状です。活動は総登録者の20%程度とさせていただければと思います。以上です。

【 会長 】

パラスポーツ協会の今の取り組みと、それから現状についてご報告をいただきました。今のでよろしいでしょうか。

【 委員 】

ありがとうございます。私が参加していないところでも参加されている方がいらっしゃるということがわかりました。ただ20%の活動率ってあんまり高いとは言えないかなと思うんですけど、受講されたきっかけというか、何を目的に（受講）されたのかというところと、現状活動をできる状況との、理想と現実の乖離があったりするのかなと、ちょっと気になったりしました。何かアンケートする機会があれば聞いてみたいなと思いました。

【 会長 】

ありがとうございます。いろいろご意見ご質問といただいております。それから委員の方々からの提言もいただいております。そういう形でも構いませんので、何かご発言ありましたらよろしくお願いいたします。

【 委員 】

お願いします。小学校5年生、中学校2年生の運動能力調査で19種目が全国平均値を上回るということで成果がどんどん上がってきていると思います。こちらの方の冊子（徳島県スポーツ推進計画）も拝見したんですけども、これを見ると県内の小中学生が全国平均を上回る「スポーツが好き」という割合が高く占めているので、県の取り組みが影響が出ているなということがこのグラフでよくわかります。ただそれに伴って体力合計点もなかなかこれは伸び悩むところもあるとは思いますが、こういった好きと感じる子どもたちを多く育てるために、幼少期も何か県の方としてスポーツに親しむ施策を何かなさっていて、成果が上がっていることがあれば教えていただきたいなと思いました。

それとやはり、こっちのグラフを見ると、男女差というのはやはり大きくて、女子は小学生の頃からもうすでに男子よりも運動が好きと答える児童が少ないように思います。これはやはり性差的なもので仕方がないことかとは思いますが、女の子のスポーツに対する機会などの何かチャンスというものが県の方で何かなされているかということもちょっとお伺いしたいです。よろしくお願いします。

【 会長 】

ありがとうございました。全国運動能力調査の結果について、県の取り組みが成果に表れていると。それで、運動が好きと感じる子どもが多いということは素晴らしいんですけども、幼少期においての取り組みというのがどういうものがあるのか、またはどんなことを考えているのかということが1点。2点目は男女の性差について、特に女子の方に何かもっとスポーツ運動が好きというふうに見えるような取り組みというのが何か考えているのかという2点についてよろしいですか。体育健康安全課、お願いしていいですか。

【 体育健康安全課 班長 】

先ほどご質問いただいた、幼少期の頃に何か対策をしているのかということですが、まず運動大好き！体力向上推進事業という事業がございまして、大きく分けてジョイ（JOY）という事業とレッツ（LET'S）という事業がございます。レッツ（LET'S）という事業につきましては、県立の幼稚園小学校低学年等を対象に運動習慣形成に向けた講習会に対して指導者を派遣して授業等を行っております。実際に6年度については20校と20校園ですね、幼稚園と小学校低学年の20校園、今年度、令和7年度については新しく親子一緒にコースというコースだけだったのが今年から「にこにこコース」ということで子どもだけでも参加できるような形に事業を増やしますと、38校園の申し込みがありまして、そういった形で子どもの運動習慣形成に向けた取り組みを実施しております。

続いて男女の性差についてでございますが、基本的にはレッツ・ジョイ（LET'S・JOY）という取り組みによりまして、ジョイ（JOY）という取組は学校体育の小学校の先生に指導者を派遣し体育授業で児童に指導を行って、児童が運動の楽しさ・喜びに触れることができるような授業をしておるんですけども、そこでは男女差ということではなく、男子女子こだわりなく、みんなが運動の楽しさを触れて運動習慣が形成できるようにというふうに行っておりますので、委員にいただいた女子のスポーツの体力の低下の部分については今後参考にしてまた検討してまいりたいと思います。

【 会長 】

他にご意見ございませんでしょうか。

【 委員 】

実際に先生（委員）が現場として、（さきほど体育健康安全課が説明した）体力向上事業について、この結果と、逆に現場の雰囲気はどうなっていますか。

【 委員 】

やはり女子については本当に運動離れの子も増えているなという気はしますが、体力の結果を見るとやればできるというか、女の子も体力ついていますのでもっと気持ちの面でアップしていけばもっと体力にもつながっていくのかなという印象は受けま

す。

【 委員 】

その2年生とかの体力が向上しているところ、全体的に今の子どもは以前と比べて実際に上がってきていると感じるものなのか、それともそこはちょっと、現場とは違うものなののでしょうか。

【 委員 】

運動経験というか遊びの経験が少ないので、本当にちょっとした塀を登るであるとか走るであるとかそういった基本的な、以前は日常の中でどんどん子どもたちがしていたようなことが減っているために運動経験が少ないというような感じは受けます。

【 副会長 】

僕はちょっと関連の専門やってるのでお話をさせていただくと、私たちの世代もそうですけれども、よくやる子供とやらない子の二極化がすごく広がり過ぎてて、多分ヴォルティスのジュニアなんかでも、昔に比べたら結構あんまり動いてないような子がたくさん集まってるってのは多分印象があると思います。僕らも外から見てもそれを感じますし、やっている子が平均値を上げていて、やっていない子がどんどん増えていて、なんとなくちょっと上がっている感じ、平均値だけ見ると上がっている感じだけでも、すごく二極化が出てきているんじゃないかなという。それは子どもだけじゃなくて、私たちの世代とかあるいは高齢者の世代でもやってる人とやってない人の差がもう著しいと思います。やってる人は他の事業も含めてそうですけどそれほどアプローチしなくてもどんどんやるんですけど、やらない人たちに対していかに運動させていくかということは今回のどの事業においても検討する必要があることだと思います。

【 会長 】

ほかご意見ご質問とごさいませんか。事務局からの説明以外でも、それぞれの立場で感じることであるとか疑問に思うことであるとかもしありましたらこの機会に是非ご意見いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

【 委員 】

応援の仕方に関する提案じゃないですが、最近見たのが海外で巨大なスクリーンみたいなのがあってそこにサッカーだったり野球の試合を見る施設みたいなのがあって、映画館みたいなのに近いと思うんですが、そういうパブリックビューイング的なのがあって、そういうの徳島県とかでもやってみても面白いんじゃないかと思って。これの利点としては天気は左右されずに雨とかでも屋内なんで自由に見えるっていうのと、またD A Z Nとかサブスクに入っていたら小さい画面で見ることになると思うんですけど、そこ（スクリーン）だったら臨場感も味わいながら見れるみたいなのがあるので、そういうのが計画とか新しい応援の形として計画とかされているのかなっ

という提案です。

【 会長 】

ありがとうございました。スポーツの応援の形としてパブリックビューイング等をもっとやってはどうかというようなご意見だったと思います。お願いします。

【 スポーツ振興課長 】

特にそういうのを今計画しているかというとは計画はないんですけれども、過去にもパブリックビューイング的なものはやったことはあります。例えばバスケットボールの日本代表に県人が2名、去年ワールドカップですかね、入っていたときはこの県庁1階のロビーで、パブリックビューイングというとは多分怒られるので「みんなで映像を見た」というようなこともやりましたし、また今後ヴォルティスさんが上位におられますので、例えば J1 に上がる入れ替え戦のどこまで行ったら、どこかでやるとかはいいですか、委員。

確かにいいお話だと思いますので、例えば県のゆかりのある方が出ている試合とか、県のプロスポーツチームなんかがどこかで決勝戦をやるとか、そういうときには提言があったようなことをまた検討したいと思います。

【 委員 】

徳島ヴォルティスです。過去には徳島ヴォルティスの J1 昇格があったときにスタジアムでやったりとか、あとアスティとくしまさんが自主事業でホール開放してパブリックビューイングをやっていただいて、あと小さなところでは今阿波銀行様が本店のほうで何試合かパブリックビューイング的なことをやっていただいたりということをしております。皆さんで盛り上がってやるっていうことは本当に楽しいし、一つの応援の形としては大変いいことだと思うので、県の皆さんが頑張っていて準備していただければと思います。

あとすいません、今回甲子園もそうですが J リーグもシーズン移行しまして実は来年から秋春制に変えます。一つはヨーロッパのリーグのシーズンに合わせるというものもあるんですが、一つはやっぱり暑い中での試合を減らすと。特に今年は甲子園も朝と夕方というふうに試合の形も変えて、やはり暑い中で子どもたちとかのスポーツの場をどう確保するかということが非常にこれから大きな問題なのかなと。J リーグも実は気候アクションとかサステナビリティということでそもそも地球温暖化のところもやっているんですが、それ以外にまず暑い中でどうやっていくかということで教育委員会の施設整備課さんがかなり大きな金額でおそらく県立高校の体育館に、防災の観点もあると思うんですがクーラーを入れているという本当に非常に子どもたちが暑い中でも運動できるという本当に素晴らしい取り組みだと思うんですが、今後こういう取り組みどういうふうに進めていくか、こういう暑い中で子どもたちの運動の場をどう確保していくかということをどのようにお考えなのかご意見お聞かせください。

【 会長 】

ありがとうございました。暑い中でのスポーツ、またそういうのをその機会をどういうふうに確保していくのか、そのあたりの今後の方向性についてお願いいたします。

【 スポーツ振興課長 】

今、委員からもご紹介いただいたように、県立学校の高校の体育館につきましては、来年度中ですかね、全部つくと思うんですが、今、屋内スポーツでいうと小中学校の体育館も使われております。そこは市町村教委の話になってきておりまして、今、県の方では非常に有利な補助金を作っておりますので、その活用をしていただいて計画的にまず整備していただくということをどんどん市町村のほうに話を持っていきたいなと考えております。ただですね、サッカーもそうですけど私もずっと少年サッカーの指導をしておりまして、外の競技をどうするか。これがどうなるか分かりませんが多分おそらく気温が下がることがないんだらうと。これから上がっていく。現状でも真夏の日中は大人の私でもかなりしんどい、2、3 時間外にいとそこで小学校低学年の子とかが休憩しながらですけどサッカーやっていくっていうのはちょっと現実的ではないのかなと。ということは朝早くやるか夜やるかってしかないと思うんです。やはり徳島県の今の環境でいうと照明があるところが少ないので、そういうところに施設整備でお金を入れていくのかなと考えております。計画的にいいですけど、やっていければと思います。以上です。

【 委員 】

今の話に関連するんですけど、スポーツやってて、雷、災害が起きたときの対応についての施策だったり、徳島ヴォルティスさんだったら弊社（大塚製薬）のほうで練習してるんですけど、全て避難訓練をしたり、どこに避難するとか、保護者が来ててもどこにとかっていうのを、私とヴォルティスのコーチでいろいろ話をして、この建屋にとかっていうことをやってるんですけど、逆に少年団だったり、雷とかも急になって亡くなられたお子さんもいられるし、地震とかの時って、やっぱりいつ起こるかわからないというところで、そういうことに関して何かというのはあるのかどうかというのをちょっとお聞きしたいです。

【 会長 】

ありがとうございました。スポーツを実施しているときに起こり得る雷であるとか地震であるとか、そういう非常時の対応についてどう考えているのかというようなご質問であったと思います。お願いいたします。

【 スポーツ振興課長 】

大会のときとかは必ず EAP を作ってくださいとお願いをしているので、例えば何かあれば、事故や病気だったらどこの病院で、救急支援とか。ただ通常の練習時には特にご指針みたいなものは多分ないので各少年団任せに今はなっていると思います。ただその今おっしゃられたようにいつ起こるかわからないのでそういう部分を含めて

県の方でも考えていけないのかなと思います。

【 会長 】

ありがとうございました。あと何かございますか。

それでは次の議事3の方に進めさせていただきたいと思っております。議事3のその他につきまして、事務局の方から報告をよろしくお願いいたします。

【 スポーツ振興課交流拡大室室長補佐 】

資料3及び動画に基づき説明

【 会長 】

ありがとうございました。ワールドマスタースゲームズ 2027 に向けての取り組みについてご報告をいただきました。時間がだいぶ過ぎてまいりましたがスポーツ全般につきまして何かご意見等ありましたらこの機会にぜひお願いしたいと思います。委員の皆様方何かございませんか。

【 委員 】

徳島県サーフィン連盟です。ありがとうございます。すごい貴重な資料を見させていただいて、我々も 2027 年度サーフィンを実施させていただくように、今ずっと毎年準備をして大会をやっているんですけども、サーフィンの愛好家の方で毎年四国にその大会に来られる方は非常に認知度が上がってきている現状ではあります。27 年に開催された暁にはぜひ参加したいというようなお声をいただいているので、非常にサーフィン業界に関してはこの大会は非常にポジティブな位置づけというところを一点共有をさせていただきます。

もう一点だけ追加というかさせていただきます。先ほど委員様からあったように、やはり我々サーフィンであったり屋外の競技、非常に気候変動の煽りを受けてまして、まさに水の中のスポーツなんですけども水の中にいても熱中症になってしまうような、国際大会で南米とかでやる場合はアイスバスが水の隣にあるような状態です。そういった非常に危機的状況の中でスポーツが気候変動対策を取っていくっていうことを非常にこれから重要視というかマストになってくるんじゃないかなというふうに思います。ご説明もありました J リーグさんなんかは非常に先進的な取り組みもされていますし、そういった今非常にスポーツ×気候変動でお手本になるところが世界的にもたくさん出てきていますので、県であったり行政の皆さまと連携したスポーツ連盟、我々のようなスポーツ連盟と行政の皆さま連携した気候変動対策っていうのをスポーツの現場から取っていく。その指導者であったりこのクラブの大人がそういった認識を持つのに合わせてやっぱり子どもたちが次の次世代がやはり今から一番危険な時代を生きていくと思いますので、そういった子どもたちが自分たちのリテラシーを向上させてその施策を作っていく側になると思いますので、そういった彼ら含めの県民のそういったスポーツに携わる子どもであったり、指導者のところの知識を上げていく、まず勉強会であったりあとは大会であったり実際に地域クラブの皆さまであったり非

常に精神的に例えば脱プラであったり脱炭素の動きっていうのもやられてるクラブさんあると思いますので、そういったところに例えば補助を出していくとか、モデルで連携して一緒にやっていくとかそういった姿勢、ポーズを県として県民に見せていくっていうことも非常にスポーツのところから見せていくっていうことが今後大事になってくると思いますのでそれこそ今年来年では難しいと思うんですけども、こういう目標の中に気候変動対策をスポーツでやっていくっていうような項目を追加してもいいんじゃないかというふうに最後思いましたので提言させていただきます。以上です。

【 会長 】

ありがとうございました。気候変動対策をスポーツでもやっていくというようなことをこの施策の中に入れてはどうかというような提言だったと思います。またスポーツ振興課の方でもご検討いただけたらと思います。

【 スポーツ振興課長 】

ありがとうございます。今の推進計画は令和9年度までですので次期計画にそういうのがあってもいいのかなと個人的に思います。また検討させていただきます。

【 会長 】

他にはご意見ございませんでしょうか、ありがとうございました。以上をもちまして議事の方を終了させていただきたいと思います。スムーズな議事進行へのご協力ありがとうございました。